

2026 年度 (令和 8 年度) 学校評価自己評価表

中央中学校区	校番	福山市立中央中学校
	最終更新日	2026年(令和8年) 4月 1日

I 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

前年度学校運営協議会 (学校関係者評価)の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	「学びに向かう力」 「課題発見・解決力」 「自己肯定感」
○現状から何をどう改善することで、 子供たちの力が伸びるのが具体的に 話し合わせ、教職員のやる気が児童生 徒に伝わっている。 ●学力について課題がみられる。具体 的な方法をより考えられ、一人一人の 力が伸びるようにお願いしたい。	○友達と力を合わせて、行事や課題に取り 組もうとする児童生徒が多い。 ○自分の考えを表現したり、仲間の意見 を聞き、再考したりする力がある。 ●全国学力調査等の結果から算数・数 学、国語の基礎的な力に課題がある。 ●減少傾向にあるものの不登校傾向に ある児童生徒数の出現率が高い。 ●自己肯定感が低い児童生徒が多い。	めざすこども像 (義務教育修了時の姿)	ふるさとを愛し、地域の中で、伸びやかにたくましく成長している
		中学校区として 統一した取組等	1 コミュニティ・スクールに係る取組の推進 2 校区合同で実施する授業研究 3 中学校生徒会による「学校紹介」の実施 4 校区校長会、校区教頭会、校区主任会等を通しての連携

III 自 校

学校教育目標
一人一人が、生きる力を育み、輝ける教育の推進

現 状
<児童生徒> ○落ち着いた学校生活を送ることができている。 ○学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたり することが出来る生徒の割合が増えた。 ○授業改善や各学年の放課後学習の取組により、「わかった。」という実感を持ち、 がんばろうとする生徒の姿が増えた。実際に、学力の向上も見られる。 ○不登校傾向にある生徒の割合が昨年度と比べて低くなっている。 ●体力テストでの数値が県、市と比較して低い種目が多い。 ●家庭でのゲームの時間について生徒会を中心に、取り組んだ。 <授業> ○国語科・数学科の教員によるポートフォリオの研修を持ち、課題改善の考え 方を共有できた。 ○振り返りの工夫がみられ、学力の向上につながっている。 ○学習規律は概ねできている。 ●家庭学習の習慣化は、教科間に差があり、個々の学力の差につながっている。 次時につながる家庭学習を作成・出題するなど工夫している。

育成する 資質・能力		「学びに向かう力」	「課題発見・解決力」	「自己肯定感」
めざす こども像	1年	・学ぶことに興味や関心を 持ち、見通しを持って粘り 強く取り組もうとしている。 ・自分の学びを振り返り、 次の学びや生活に生かそ うとしている。	・自ら問いを見だし、課 題解決を目指して、より良 い方法を選択し取り組も うとしている。	・対話を通じて、自己の考 えを広げ、深めることがで きる。
	2年		・精査した情報をもとに、 自分の考えを形成し、伝え ることで、課題の解決に向 け探究しようとしている。	・自分と他者の考えの相違 に対して受けとめ尊重し ながら、協力・協働するこ とができる。
	3年		・課題を見つけ、自らのテ ーマを決定し、調べ、発信 するプロセスを大切に解 決しようとしている。	・学んだことを生かして他 者や社会に対して貢献で きる。また、自己の在り方 を振り返り改善できる。
研究	テーマ	「学習意欲の向上と基礎学力の向上」		
	内容等	基礎学力の向上を目指し、授業力の向上と個別の学習支援の方法を研究・実践する。 授業の相互参観を行い、互いの授業力の向上（「みるみる見せる」の取組の継続）		
めざす授業の姿		・学習意欲が高く、学びたい、知りたいといった知的好奇心や関心意欲が高い。 ・他者と関わり合い、教え合い、話し合いがあり、学びが深化する。 ・失敗を恐れずに安心して発言ができる。 ・自分の考えを持ち、進んで学び、課題解決ができる。 ・授業の中で、たくさんの「できた！わかった！」が内包されている。		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目 標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	力 加	セ 以	達 成 評 価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状 況	力 加	セ 以
2	学ぶ意欲と 基礎学力を 向上させる。	★	継 続	・授業者が子供及び 教材理解を深めるこ とで基礎学力を高め 学習意欲の向上を図 る。 ・ポートフォリオの 考え方を共有し授業 改善を図る。	・「授業で考える ことが面白い」と実 感する生徒の割合を 増やす。 ・次時につながる 家庭学習を設定す る。 ・ポートフォリ オを作成し校内 研修を行う。	・生徒アンケ ート『授業が よく分かる』 の肯定的評価 を75%以上 ・『みるみる見 せる』を年1回 以上行う。 ・授業改善研 修を年2回以 上行う。								
6	多様な学び の場の充実 を図り、安心 して通える 学校づくり を行う。		継 続	・ほっとルーム、か がやき、民間団体等 関係機関と連携し て、多様な学びの場 の充実を図り、生徒 の学習できる居場所 を確保して、長期欠 席生徒数を減らして いく。 ・安心・安全に学校 生活を過ごせる集団 づくりを行う。	・担任及び教科担当として 週1回以上ほ っとルームに通う生徒の様 子を把握する。 ・長期欠席者ゼ ロ委員会を行 い、取組の方向 性を共有する。 ・生徒が自ら 考え達成感を 味わうことが できる取組を 行う。(学年集 団・学級集 団・班活動・ 部活動等)	・長期欠席生 徒数 昨年度 35名を下回 る。 ・生徒アンケ ート「自分の 良さは周りか ら認められて いる」の肯定 的評価70% 以上								

3	学校教育に対する満足度を高める。	継続	・保護者、地域に積極的に情報発信を行い、学校教育に対する満足度を高めていく。	・学校からの通信やHP、すぐる等により教育方針や内容を伝える。	・中央中学校へ通わせて良かったと思う保護者の割合を90%以上にする。														
6	教職員が元気に笑顔で力を発揮できる取組を進める	継続	・日々の仕事の中に充実感を感じ、満足度を高めていく。	・子どもたちに元気に向き合える環境を整える。 ・超過勤務の縮減	・教職員アンケート「仕事に意義ややりがいを感じている」の肯定的評価の割合を昨年度同様100% ・時間外勤務時間が月45時間以内の割合を70%以上														

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。